

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ピノ		
○保護者評価実施期間	令和7年3月 8日		～ 令和7年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和7年3月18日		～ 令和7年3月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが安心して過ごせる環境の工夫	・スペースが狭い中でも仕切りを活用し、個人スペースを確保できている。	・児童と一緒に仕切りやコーナーを装飾・名前を考えるなどし、愛着と安心感を高める。 ・テントやクッションコーナーなど、感覚過敏や多動のある子への配慮ゾーンを設置する。
2	職員体制と連携の工夫	担当を明確にし、職員間で活動内容を把握しあう体制。対応を丁寧に、すぐに連絡を行うなど、職員の連携と対応力	・簡単な申し送りノートやチェックリストを導入し、毎日の支援内容を記録し、次のスタッフへスムーズに引き継げるようにする。 ・事例共有の時間を定期的に設ける。 ・外部研修などへの参加推奨し、チーム全体の専門性の底上げを図る。

3	保護者との良好な関係・情報共有が出来ている。	支援内容や活動内容の説明を丁寧におこなう。 保護者からのフィードバックを業務改善に活かすように心がける。	・定期的なお茶会・交流会で保護者同士・職員とのラフな意見交換の場を設ける。 ・簡単なアンケートにより、満足度チェックやリクエスト調査で個別ニーズを把握する。
---	------------------------	---	---

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	物理的なスペースの狭さと使い勝手の悪さ。	中高生対象のため 体の大きさに対する一人のスペースが狭く感じる。 スペースなどの説明不足・来所する機会が少ない。	・可動式の仕切りや収納・机のレイアウトを工夫し、移動の負担を軽減する。 ・保護者への説明の強化、定期的な案内や資料を配布する。
2	構造上のバリアフリー対応		出入口やトイレなど、できる範囲での改善・サイン表示などの工夫。
3	活動空間の柔軟性	活動のたびに机を移動するのが大変である。	日々の活動の流れを再検討し、準備・片付けの負担を減らす。